

伝説のフェラス=バルビゼの薫陶を受けた日仏デュオ
C.ジョヴァニネッティ & 青柳いづみこ
デュオ・リサイタル



青柳いづみこ
 (ピアニスト、文筆家)

クリストフ・ジョヴァニネッティ
 (パリ国立高等音楽院教授)

PIANO VIOLIN

〈予定プログラム〉
 シューベルト/ソナチネ 第3番 op.137-3, D408
 ベートーヴェン/ヴァイオリン・ソナタ第5番 op.24 《春》
 ドビュッシー/ヴァイオリン・ソナタ
 フォーレ/ヴァイオリン・ソナタ第1番 op.13 ほか
 ※出演者・プログラムが予告なく変更となる場合がございます。

9/18 (水) 開演 19:00 (開場 18:30)

Halle Runde

(〒466-0044 愛知県名古屋市昭和区桜山町一丁目 21 番)

入場料

一般 4,000 円 学生 2,000 円



【お申し込み QR コード】 ※駐車場使用不可のため公共交通機関をご利用でご来場ください。

C.ジョヴァニネッティ & 青柳いづみこデュオ・リサイタル

～青柳いづみことクリストフ・ジョヴァニネッティ～

両者はマルセイユ音楽院時代、青柳がピエール・バルビゼのもとで学んでいた頃から共演をしていた。デュオを組み始めたのは2009年、それ以来フランスと日本を中心に多くのリサイタルを行い、好評を博している。2013年にはコンティニューオ・クラシックスよりデュオアルバム『ミンストレル』をリリース、フランスと日本の紙誌で好評を得た。2024年9月には、デュオの2枚目のアルバムとなる『シューベルトのソナチネ』(ALM)をリリース。



クリストフ・ジョヴァニネッティ(ヴァイオリン)

パリ音楽院、ブカレスト音楽院に学び、さらにドイツでアマデウス弦楽四重奏団のもとで研鑽を積む。1984年にイザイ弦楽四重奏団、1995年にエリゼ弦楽四重奏団を結成し、第1ヴァイオリンをつとめた。これらのクワルテットにより、デッカ、ハルモニア・ムンディ、フィリップス、ジグーザグ、テリトワールでの録音を果たすとともに、ニューヨークのカーネギー・ホール、ウィーンのリックフェライン、ザルツブルクのモーツァルテウム、ロンドンのウィグモア・ホール、クイーン・エリザベスホール、アムステルダムのコンサート・ヘボウ、パリのシャンゼリゼ劇場など、世界各地の檜舞台に登場した。室内楽奏者としてはオーギュスタン・デュメイ、ジュロモ・ミンツ、マリア・ジョアオ・ピレシュ、ジャン＝フィリップ・コラール、フランク・ブラレイ、ミシェル・ボルタルなど著名な音楽家と共演している。2013年からアンサンブル・カリオペに参加。2014年から3年間に3枚のCDをリリースしている。2017年に作曲家・ピアニストのミカエル・レヴィナス、チェリストのエマニュエル・ベルトランとトリオを結成。演奏活動と平行して、パリ国立高等音楽院教授として後進の指導にもあたっている。

かつてユーディ・メニューインはクリストフ・ジョヴァニネッティの演奏を聴き、「私はこの天使のような音楽かのおかげで、人生における最もピュアな音楽的感銘を受けた」と述べた。



青柳いづみこ(ピアニスト・文筆家)

安川加壽子、ピエール・バルビゼの各氏に師事。フランス国立マルセイユ音楽院首席卒業、東京藝術大学大学院博士課程修了。『ドビュッシーと世紀末の美学』で学術博士号。平成2年度文化庁芸術祭賞。演奏と文筆を兼ねる稀有な存在として注目を集め、著作は34点、CDは24枚。21枚のCDが『レコード芸術』特選盤となるほか、師安川加壽子の評伝「翼の生えた指」で吉田秀和賞、祖父青柳瑞穂の評伝『真贋の間に』で日本エッセイストクラブ賞、ミステリー・エッセイ「6本指のゴルトベルク」で講談社エッセイ賞、CD「ロマンティック・ドビュッシー」でミュージックペンクラブ音楽賞。近著に「パリの音楽サロン ベル・エポックから狂乱の時代まで」(岩波新書)、CDにソロアルバム『仮面のある風景』(TKI)、高橋悠治とのデュオで『シューベルトの手紙』、ソロアルバムで『仮面のある風景』、西本夏生とのデュオで「カプリス」(以上ALM)。日本演奏連盟、日本ショパン協会理事、大阪音楽大学名誉教授。兵庫県養父市芸術監督。HP:<https://ondine-i.net>

©Akira MUTO

Halle Runde

(〒466-0044 愛知県名古屋市昭和区桜山町一丁目21番)

